

# 皆さまの“声”を病院サービス向上に

## —患者満足度調査の実施—

## 患者サポートカンファレンス

昨年度同様、当院では、2024年10月・11月に患者満足度調査を実施しました。ご協力いただきました患者さま、ご家族さま、ご利用者さまに厚くお礼を申し上げます。下記に総合的な調査結果を報告いたします。

### ●アンケート実施期間

- ・入院：10月21日～11月1日
- ・外来：10月16日～10月28日

### ●回答数

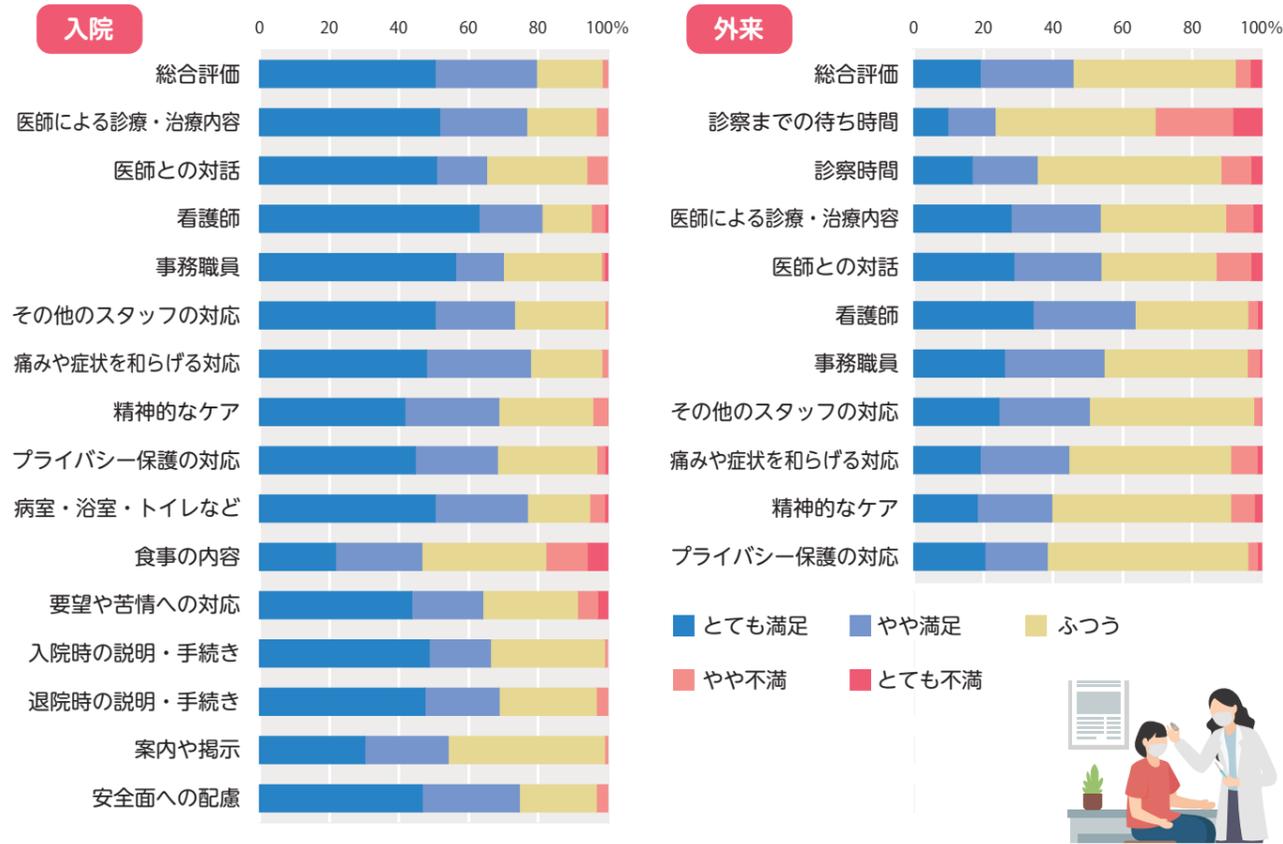
- ・入院：127件
- ・外来：667件

### ●調査結果

昨年度調査に引き続き、各項目において満足度が低い結果となったのは「外来待ち時間」と「案内や掲示」についての項目でした。

これについては各ワーキンググループを設置し、外来待ち時間を短縮させる、あるいは待ち時間を感じさせない施策について意見を出し合ったり、1階外来フロア案内図の作成・配布や院内掲示板の整理をするなど、改善に向けて取り組んでいます。

皆さまの“声”が病院サービス向上につながります。今後も皆さまに信頼される病院づくりに励んでいきます。



特定医療法人 誠仁会

**大久保病院**

〒674-0051 明石市大久保町大窪2095-1  
tel. (078) 935-2563



### 交通機関をご利用の方

- JR山陽本線「大久保」駅下車、北へ徒歩20分
- 「大久保」駅北口より神姫バス②のりば 19「山手台」行き
- のりば 12「西神中央」駅、「上岩岡」、「五百蔵」行き「山手小学校前」バス停下車、東へ徒歩5分

### 車をご利用の方

- 第二神明道路「大久保IC」より、大久保方面へ約10分

大久保病院だよりはホームページでもご覧になれます  
<http://www.seijinkai.or.jp/okubo/index.html>



地域医療に  
想いをかけて

特定医療法人 誠仁会



# 大久保病院だより

2025年  
1月10日

編集・発行 | 特定医療法人 誠仁会 大久保病院 地域医療連携室 ● 明石市大久保町大窪2095-1 TEL078 (935) 2680 FAX078 (935) 2684

冬 No.56

## 急増する高齢者の 大腿骨近位部骨折と リエゾンサービス



整形外科 医師 多門 和一

大腿骨近位部骨折（頸部・転子部・転子下）は2020年で全国で約24万例発生しており、2040年には32万例に増加すると推定されています。

太ももの骨（大腿骨）は加齢や運動量低下にともない骨密度が減少し、筋力の低下が起こって転倒しやすくなると、骨折が多くみられるようになります。特に高齢者では寝たきりの原因になるなど、生活レベルを大きく損なうもので、早期からの予防や対策が重要です。

当院でもこれに対応すべく大腿骨骨折術後の患者



さまに寄り添えるリエゾンチームを昨年発足させました。リエゾン (liaison) とは、仲介や橋渡しといった意味を持つフランス語です。そのサービスの目標は『骨粗鬆症治療開始率や治療継続率を上げることで二次骨折を予防すること』にあります。大腿骨を骨折すると手術はほぼ必須となり、術後安定するまでに長期間かかります。運動習慣の構築や住まい環境の整備など、すぐ実行できないことにも段階的に対応しています。

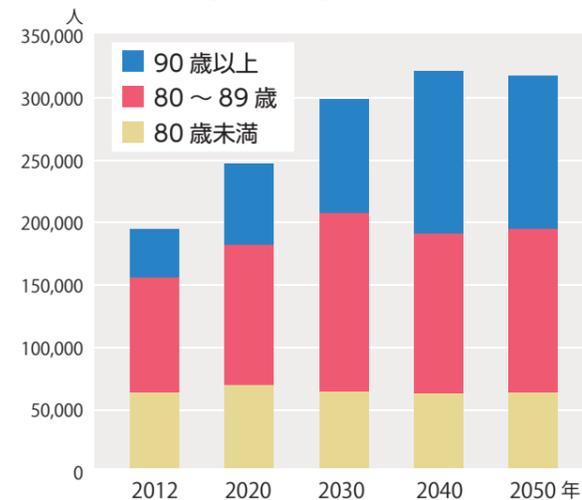
できる限り元の住まいに戻るようプラン設定し、再骨折で再入院にならないよう骨教育や骨粗鬆症の投薬も行います。

良質な食事や運動・睡眠などの多種多様な分野も二次骨折を予防するのに役立ちます。

骨折後1年間は2度目の骨折が生じやすく、退院してからでも外来において繰り返しの説明と治療の継続を行います。

『骨折を治すことは当然のことで、さらに先を見据えた未来の骨折を止める』それが今後の大きな課題なのです。超高齢社会の中、骨折なしの人生とするために共に学びましょう！

### 大腿骨近位部骨折の患者数



出典：厚生労働省 中協 総-3 (3.12.10)

# 患者様の日常生活の質の向上を目指して

## 二次性骨折予防の取り組み

骨粗鬆症は、骨密度が減り、骨がもろくなって骨折しやすくなる病気です。骨の量は年齢を重ねると誰でもだんだんと少なくなりますが、それ以上に減ってしまうことで、尻もちをついたり、重い荷物を持ち上げるなど、日常生活のささいなことで骨折してしまうことがあります。

リエゾンチームの看護師の役割として、退院後も住み慣れた場所で安全・安心な生活ができるように、日常生活の過ごし方について指導を行っています。入院中にパンフレットを活用し、一度骨折することで二度目の骨折が繰り返しやすくなることなどの情報提供や、二次性骨折予防に大切な食事療法、日常生活の留意点では、浴室には滑り止めマットを使用したり、部屋の整理整頓を心がけ、通り道に物を置かないなどの説明を行っています。



患者様からは、骨折と骨粗しょう症の関連性、生活の場面に潜んだリスクなどを知ることができるという言葉も聞かれ、看護師としてのやりがいを感じています。まだ取り組み始めたばかりではありますが、改善を図りながら患者様の日常生活の質の向上を目指して取り組んでいきたいと思っております。

リエゾンチーム 看護師 3階南病棟 後藤・原田

### 〈予防策〉



整理整頓を心がけコード類は部屋の隅にまとめ、通り道に物を置かない



浴室など滑りやすい場所には滑り止めマットを使用しましょう



階段の手すり

# 地域に根差した救急体制強化のために

## 救急外来をリニューアルしました

### 救急委員会



本院の救急外来では24時間救急患者さんの受け入れを行っています。救急搬送患者や外来診察時間外でも緊急を要する患者さんの対応をしています。

2024年4月より救急搬送患者の対応をする医師が増え、救急搬入件数も増加しています。そこで更なる救急体制の強化を目指し、旧診察室を改修し救急外来初療室

を拡大しました。改修後は救急患者の受け入れベッドが増え、以前よりもスムーズに患者さんを受け入れる体制が整いました。救急医の初期診療後に各担当医へ連携し治療を行うなど、他部署や多職種が協力し患者さんへチーム医療を提供しています。

今後も地域の人々に安心し満足していただける地域密着の病院を目指しスタッフ一丸となり、頑張っています。

## 地域の方々に喜んでいただきました

### 第28回 大久保北健康まつり

### 生活習慣病対策委員会



櫻井武先生による記念講演



各測定会場



2024年10月26日(土)、第28回大久保北健康まつり(主催：大久保北コミュニティ・センター、後援：大久保病院)が開催されました。今年度も天候に恵まれ約310名の地域の方々にお越しいただきました。

今回の記念講演では筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構副機構長の櫻井武先生に「睡眠との上手につきあひ方」をテーマに脳と睡眠の関係等わかりやすくご講演いただきました。講演後に各コーナーにて動脈硬化測

定・骨密度測定・健康測定・キッズドクターキッズナースになりませんか?・食事の展示と試食・介護体験コーナーなど数多くの方に参加いただきました。前回に続き百貨店からのスイーツ移動販売も行い、多くの方に好評いただきました。また、保健医療相談コーナーでは内科医・整形外科医が担当し、相談内容に合わせて専門の医師がアドバイスをを行い、たいへん喜んでいただきました。

## リハビリ通信

リハビリテーション科

第8回

### 転倒予防

転倒した方の8割以上が、通院や入院が必要なケガをしており、介護が必要な状態になりやすいと言われています。また、65歳以上の高齢者の3人に1人は、1年間に1回以上転倒すると言われています。

骨折など、大きなケガにつながるのは5%程ですが、転倒すると無傷では済まないことが多いのが実状です。転倒・骨折は認知症や脳血管障害と並び、主要な要介護要因となっています。転倒・骨折は直接的に要介護の要因となるだけでなく、様々な制約を招き入れながら、負の循環を形成することになります。

転倒予防にはバランス能力と筋力の向上が大切ですので、取り組んでみましょう。

リエゾンチーム 理学療法士



椅子からの立ち上がり  
太ももの筋肉を鍛えましょう



片脚立ち運動  
バランス能力を鍛えましょう。最初は椅子やテーブルを持ってやってみましょう